

## ペン・ネット付け句（令和2年4月）



ペンクラブ会場の都合によりネット付け句会に変更。

中村さんの出題で歌舞伎町のキャバクラの看板の写真です。

寸評：

1) プチ整形重ねた顔のコンテスト 松田 昌康

美人というよりは整形のコンテストといった感じ（清水）

皆綺麗だけれどどれも似たような顔でつまらない（三春）

顔の部品をいじればみんな同じ顔に近づく（中村）

2) 看板に惚れて入店見て仰天 長尾進一郎

「入店」「仰天」のリズム感がいい（三春）

句の調子のよさ。看板に偽りあり？（中村）

想像力抜群。明敏な作者！（安藤）

3) マスクすりゃ皆おんなじ顔に見え 中村晃也

街を歩いても皆さんマスクで同じ顔にみえます（清水）

4) 山桜都会にかぶれ八重桜 三 春

田舎娘が都会の水で華美になるのは世の常（新田）

5) 唇の拗ねて叫んで囁いて 新田 由紀子

迫力ある唇につられて拗ねられ、囁かれ、挙句…（大月）

唇をピンポイントで活写した大胆さに脱帽（長尾）

6) 歌舞伎町知事の一声 j o b 奪う 大月 和彦

コロナ関連ではズバリ核心を突いている（清水）

7) 荒稼ぎ新入りキャバ嬢コロナちゃん 三 春

コロナがピチピチのお嬢だったら殺されてもいい（新田）

8) ピストルや弓矢使わず目で殺し 池田 隆

おなじような美しい目。「目で殺し」の措辞が巧み（中村）